

社会保障・税番号制度がはじまります。

マイナンバーって どういうこと?

平成27年10月から、日本国内の全住民に通知される、1人ひとり異なる12桁の番号のことです。

※マイナンバーは今年10月以降に簡易書留で届きます。以下の3つが入っているか確認し、大切に保管してください。①マイナンバーの「通知カード」②「個人番号カード」の申請書と返信用封筒③マイナンバーについての説明書類

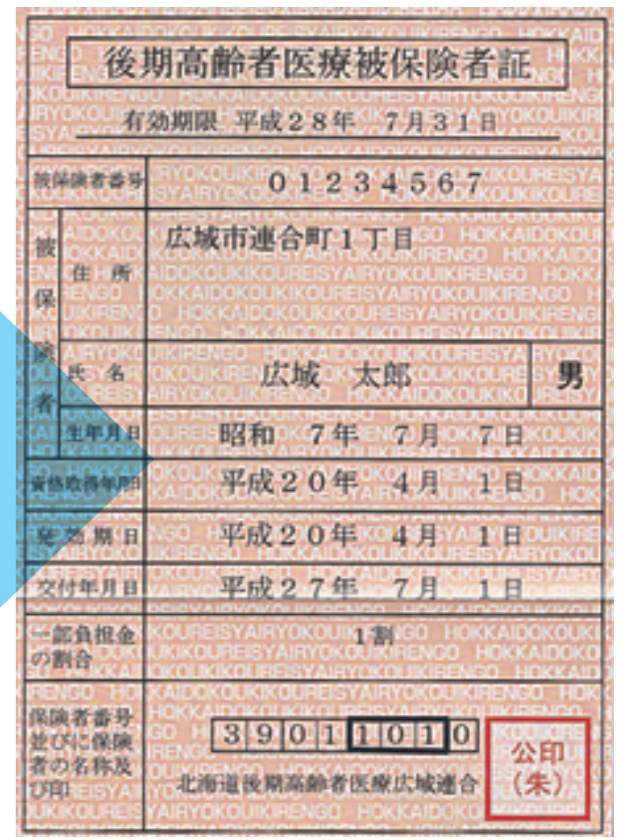
◎個人番号カードは、健康保険証としての利用も検討されています。

後期高齢者医療 被保険者証が更新されます

今年 8月から

新しい保険証は お住まいの市町村から 7月中に交付されます。

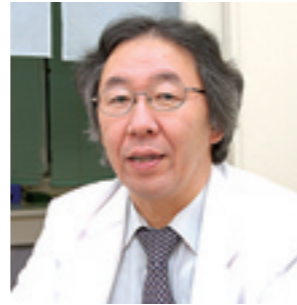
平成27年8月から(オレンジ色) **新**



平成27年7月まで(黄緑色)

発行：いぶりば発行委員会 伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 ☎0142-21-1400 ☎0142-21-1401 発行/平成27年7月10日 4月・7月・10月・1月の年4回発行 ※本誌掲載の写真、記事の無断転載は固くお断り致します。 発行責任者：横井 浩

坪院長の健康講座



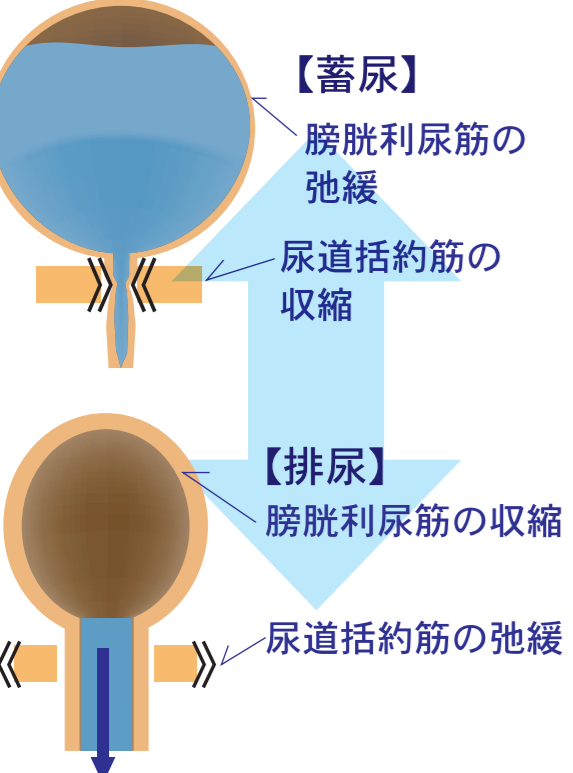
尿失禁・過活動膀胱などの 蓄尿障害について

院長 坪 俊輔

仮に人生80年と考えると1日の平均排尿回数を5回とすると、一生で14万6千回排尿していることになり、一回の排尿に要する時間は約800時間、人生の僅か0.1%、残りの99.9%は蓄尿の状態にある事になります。今回はこの蓄尿の障害である尿失禁・過活動膀胱についてお話します。

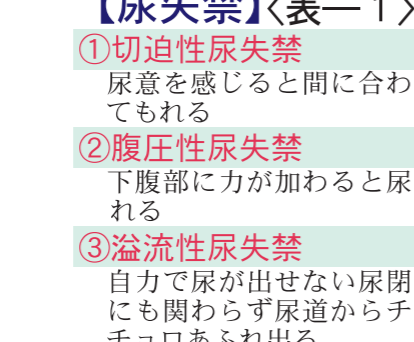
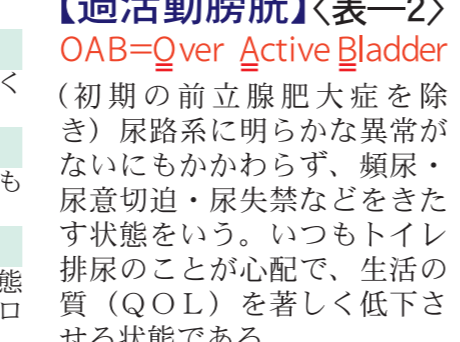
蓄尿と排尿は膀胱尿筋と尿道括約筋のスムーズな協調運動により行われています。(図一参照)ここに下部尿路の物理的または機能的通過障害による排尿効率の低下・膀胱尿筋の過反

【蓄尿と排尿】 **【蓄尿】** 膀胱尿筋の弛緩 尿道括約筋の収縮 **【排尿】** 膀胱尿筋の収縮 尿道括約筋の弛緩



射・尿道括約筋の機能低下・膀胱の炎症などが影響して頻尿や尿失禁を起こすことになり、尿失禁とは、場所や時間を問わず自分の意志とは無関係に尿が漏れてしまう事、表一に示したように切迫性尿失禁・腹圧性尿失禁・溢流性尿失禁に分類され、それぞれ混合型もあります。

切迫性尿失禁・腹圧性尿失禁は女性に多く、日本女性の6割近くが経験しているといわれています。切迫性尿失禁は、例えば台所に立つて冷たい水に触れただけでも起きることがあり、尿路感染や膀胱尿道にあればその治療が優先されます。明らかに原因がないにもかかわらず頻尿・尿意切迫・尿失禁などがある状態が過活動膀胱といわれ(表一参照)QOL(生活の質)を著しく低下させる原因となります。抗コリン薬や交感神経刺激薬といった薬剤が非常に有効です。

- 【尿失禁】 **【過活動膀胱】****

就任のごあいさつ



7月より外務部長に就任しました間明暁子と申します。外務は病院の入り口であり、当院の第一印象は「ここで決まる」と言っても過言ではないことを認識しながら、日々高い意識を持って業務に臨むことが最大の使命と考えております。

現在外務は、師長1名と6名の看護師、2名の看護助手合わせて9名体制で外来診療、往診、訪問看護など、日々業務を展開しています。病気の不安を抱え来院される患者様、その「不

新人スタッフ紹介

http://www.ibujin.com

高橋 由香 透析室看護師



「これまで老人内科の経験が主で、専門医療機関での看護は初めて、大変な経験でした。今年5月から透析室での看護を担当し、新しい職場で、新たな挑戦を頑張りたいと思っています。」「新しい職場で、新たな挑戦を頑張りたいと思っています。」「新しい職場で、新たな挑戦を頑張りたいと思っています。」

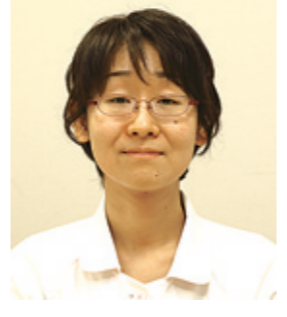
信頼される看護師に...

千歳市出身の西看護師は、約7年間医療現場から離れたが「ラストチャンス」とばかりに、今年6月から当クリニックに仲間入りした。



「看護師を目指した理由は、人と関わりたい、人の役に立ちたいという思いからです。」「看護師を目指した理由は、人と関わりたい、人の役に立ちたいという思いからです。」

笹 由以子 病棟看護師



今年4月から病棟看護師として仲間入りした笹看護師は、生誕地である伊達市に転居、以来噴火湾を望む舟岡町で暮らす。

患者様のお話をしっかり聞けるように...

「最近よく働く仕事の流れが分からなくなりました。」「最近よく働く仕事の流れが分からなくなりました。」



訂正

○:最近、テレビや新聞を見ていて気になることがある。それは「訂正」が多すぎることに気がついた。

勤続10年表彰



昨年10周年の節目を迎えた当院は、本年勤続10周年を迎えた3人の職員に感謝状を贈り、その功績を称えました。「ネットワークの良い医療」を理念に、患者様にとって安心して分かりやすい医療の提供を目標にスタートした当院にとって、10年という節目は意義深いものがあります。その価値観をクリニック全体と、職員一人ひとりが共有し、当初の理念をさらに進化させ、地域医療の充実に貢献します。以下は受賞者3人のコメントです。

▼初心を忘れず
平成17年7月1日、開院の1年後に勤めだしました。それから10年は、あつという間、病棟・透析と2部署で、初めはとまどいもありましたが、ここまで頑張ってきたのは、周りの皆さんの支えがあったからだと思っています。

▼10年を振り返って
プランクがあつても大丈夫、このクリニックに勤めるきっかけです。

▼また新たな一歩を
勤続10年を迎え、これまで育て、支えてくださったクリニックの皆様、そして今までクリニックを通してご縁のあった患者様に感謝を申し上げます。

大鎌 泰江
久保 千春